

インドネシア、大統領選は「宗教」が鍵を握る展開に

～次期政権下では「イスラム色」が強まる流れが避けられない可能性～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
 主席エコノミスト 西濱 徹 (TEL:03-5221-4522)

(要旨)

- インドネシアでは来年4月の大統領選の候補者登録が行われている。現職のジョコ・ウィ氏の去就が目されたが、正式に出馬表明を行い、副大統領候補にイスラム穏健派組織「ウラマー評議会」のマアルフ・アミン議長を選出した。昨年のジャカルタ州知事選を経た「宗教」による分断を懸念して宗教票の取り込みに動いた。他方、有力候補のプラボウォ氏は実業界出身のサンディアガ・ウノ氏とタッグを組む。現時点ではジョコ・ウィ氏の個人的人気や宗教票の取り込みで現職優位とみられるが、物価動向や格差問題は実業界や軍と関係が深いプラボウォ陣営の追い風ともなり得る。ただし、いずれの候補が勝った場合でも、次期政権下ではイスラム色が強まることは避けられず、「穏健なイスラム教国家」の顔が変貌するリスクは高いであろう。

インドネシアでは来年4月に大統領選挙が予定されており、今月4日から今日(10日)までの日程で立候補者登録の受付が行われている。こうしたなか、現職のジョコ・ウィドド(通称「ジョコ・ウィ」)大統領の去就に注目が集まっていたが、9日にジョコ・ウィ氏は正式に出馬を表明した。なお、同国の大統領選は副大統領候補とセットで投票されるが、現職のユスフ・カラ氏はユドヨノ前政権下(1期目)において副大統領職を1期務めており、同国の法律では正・副大統領は最長2期までと規定されているため出馬することが出来ない。他方、大統領候補及び副大統領候補を巡っては、政党などの推薦が必要である上、現ジョコ・ウィ政権は7つの政党による連立与党で構成されており、とりわけ副大統領候補の調整が難航していた。事前には与党幹部のほか、元国軍幹部などの名前が取り沙汰されていたが、今年6月の大統領選の「前哨戦」と目された統一地方首長選挙では、ジョコ・ウィ政権を支える最大与党・闘争民主党(PDI-P)の擁立候補は全16州中4州での勝利に留まり、中小政党が躍進するなど、これまでの選挙と様相が異なる動きがみられた。また、昨年実施された首都ジャカルタ州知事選挙では、ジョコ・ウィ氏の知事時代に副知事として手腕を発揮し、ジョコ・ウィ氏が推す現職のバスキ・チャハヤ・プルナマ氏(通称「アホック」)が決選投票の末、最大野党・グリンドラ党が推すアニス・バスウエダン氏(前教育・文化相)に敗れた(詳細は昨年4月20日付レポート「[インドネシア、宗教による「分断」と「圧力」にリスク](#)」をご参照下さい)。同知事選を巡っては、アホック氏の政策や現職としての実績以上に、国民の太宗が穏健なイスラム教徒であるなど世界最大のイスラム教徒を擁する同国において、キリスト教徒であるアホック氏がイスラム教の経典である『コーラン』を侮辱したとされる問題に注目が集まり、結果的に苦しい選挙戦を強いられた。その後、アホック氏自身は宗教冒とく罪で禁固刑を受ける事態となり、ジョコ・ウィ氏自身は穏健なイスラム教徒ながら「少数派に寛容すぎる」などと批判を浴びることとなった。さらに、上記の知事選において野党陣営はいわゆる「宗教票」を意識して取り込む戦略を採ったため、政治の舞台においても「宗教」と如何に対峙するかが鍵を握る状態が

続いている。よって、ジョコ・ウィ氏が次期大統領選での勝利を確実にするためには、副大統領候補を通じて「宗教票」を如何に取り込むかが重要になるとみられた。結果、ジョコ・ウィ氏は副大統領候補に同国最大のイスラム穏健派組織である「ウラマー評議会」議長のマアルフ・アミン氏を指名し、選挙戦を戦うことを決定した。なお、マアルフ氏はかつてユドヨノ政権下で大統領顧問を務めたほか、それ以前も地方及び国会議員としての経験を有するなど政治キャリアは豊富である。こうしたことも、各政党がマアルフ氏への推薦を承認した要因とみられるほか、ジョコ・ウィ氏はマアルフ氏について「賢明な宗教家である」と評価するなど関係も良好とみられる。他方、前回大統領選での惜敗を経て捲土重来を期す最大野党・グリンドラ党から出馬するプラボウォ氏（党首）は、副大統領候補にジャカルタ州副知事を務めるサンディアガ・ウノ氏を指名しており、事実上の選挙戦の幕が切られた。なお、サンディアガ氏は元々ビジネス界出身で新興財閥を率いてきたが、上述のジャカルタ州知事選に副知事候補として出馬、当選するなど政治キャリアは浅い。しかし、そのビジネス界での実績は国内外で高い注目を集めてきたほか、ビジネス界や国軍との関係が深いプラボウォ氏とタッグを組むことでジョコ・ウィ陣営に対峙する。現時点においては、ジョコ・ウィ氏の個人的な人気に加え、マアルフ氏をバックに付けた宗教票の取り込みなどを勘案すれば、ジョコ・ウィ陣営が優位とみられる。ただし、足下のインフレ率は比較的落ち着いた推移が続いているものの、国際金融市場における通貨ルピア安による悪影響が懸念されるほか、ジョコ・ウィ政権が進める格差是正策の効果も依然不十分ななか、経済政策を前面に打ち出すプラボウォ陣営が猛追する可能性は充分にある。また、いずれの候補が勝利した場合においても、次期政権下のインドネシアはイスラム色が強まることは避けられないとみられ、「穏健なイスラム教国家」の顔が変貌していく可能性に注意する必要性はこれまで以上に高まるであろう。

以上

図 ルピア相場(対ドル)の推移



(出所) Thomson Reuters より第一生命経済研究所作成

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。